

|         |  |
|---------|--|
| 氏名      | 那須 識徳  |
| 所属      | 人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 作業療法科学域   |
| 学位の種類   | 博士（作業療法学）  |
| 学位記番号   | 健博 第262号   |
| 学位授与の日付 | 令和5年9月30日  |
| 課程・論文の別 | 学位規則第4条第1項該当   |
| 学位論文題名  | Reliability and Validity of the Japanese Version of the Assessment of Readiness for Mobility Transition (ARMT-J) for Japanese Elderly<br>日本版移動手段の変化に関するレディネス尺度の信頼性と妥当性 |
| 論文審査委員  | 主査 准教授 石橋 裕<br>委員 教授 伊藤 祐子<br>委員 教授 小林 隆司（兵庫医科大学）  |

### 【論文の内容の要旨】

Assessment of readiness for mobility transition (ARMT) は Meuser ら (2013) により開発された、移動手段の変化と喪失に対応するための感情面や態度の準備状況を評価する指標である。Web 上にて原文マニュアルのダウンロードが可能であるが、ARMT はこれまで、原版を除き海外で翻訳されたことはなかった。2020 年に筆者らが開発責任者の許可を得て、2022 年に日本語版の言語的妥当性について検証済みである。しかし、言語的な妥当性以外の信頼性と妥当性は確認されていない。本研究の目的は、COSMIN を参考にし、日本語版の信頼性と妥当性を確認することである。

ARMT-J の信頼性と妥当性は COSMIN user manual を参考に実施した。構成概念妥当性では、異文化間妥当性を確認的因子分析 (Confirmatory Factor Analysis: CFA) にて確認した。構造的妥当性では、Map test と parallel analysis にて最適な因子数を確認した後、探索的因子分析 (Exploratory Factor Analysis: EFA) を実施し、最も適したモデルで CFA を行った。仮説検証は、関連する評価項目と相関を確認した。信頼性では内的一貫性とテスト再テスト信頼性を確認し、さらに測定標準誤差 (Standard error of the mean: SEM) と検出可能な最小限の変化 (Smallest Detectable Change: SDC) を確認した。

原版 ARMT と同様の下位因子構造で CFA を行った結果、適合度は低かった。EFA は 2 因子～4 因子にて実施したが、最もモデルの適合度が高かったのは 3 因子構造であり、CFA の結果は、 $\chi^2 = 59.289$ ,  $p < 0.025$ ,  $\chi^2/df = 1.482$ , RMSEA (=0.053), GFI = 0.94, NFI = 0.92, CFI = 0.97, TLI = 0.96 と良好な適合率を示した。Cronbach's の  $\alpha$  係数および Cohen

の重み付きカッパ係数は、それぞれ 0.85 および 0.76 であった。また test-retest の ICC は 0.93 であり、SEM は 0.72, SDC は 2.00 という結果となった。ARMT-J では原版にあった Av の因子は削除される結果となった。しかし、原版 ARMT では CFA は行われておらず、Av の因子の内部整合性は低い状況であった。その他の 3 因子は原版同様の因子名としたが、原版よりも項目数は削除されており、いくつか異なった項目数が混在することとなった。しかし、因子名の意味は同様のものと判断し、ARMT-J は 11 項目 3 因子構造とした。

本研究結果から、日本人を対象とした 55 歳以上の成人に対しては、3 因子構造が最も優れたモデルとして選択された。原版の作成時には CFA は行われていないため、原版でも同様の結果となるのかを確認していく必要があるが、因子数は削減されており、項目数も原版と比べて少ない結果となった。使用时には、これらを考慮した上で慎重な解釈が求められる。また、原版においても CFA を行い、その上で Av の項目を除外すべきかどうかについて検討する必要がある。